

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月1日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21653098

研究課題名（和文） 総合的な学習を指導する教師のコンピテンシー育成モデルの研究

研究課題名（英文） A study of workshop models for the teachers that facilitates the competency of teaching the interdisciplinary learning

研究代表者

伏木 久始 (FUSEGI HISASHI)

信州大学・教育学部・教授

研究者番号：00362088

研究成果の概要（和文）：小・中学校における総合的な学習を指導する教師に求められるコンピテンシーを国際的な視野で検討し、その育成モデルを開発するための基礎的研究を行った。デンマーク等でのPBL型演習をヒントに、日本国内でのカリキュラム開発ワークショップの実践を通して指導者養成の研修モデルを開発した。また総合的な学習を指導する教師のコンピテンシーの国際的共通尺度を作成するための国際比較Webアンケート・プログラムを開発した。

研究成果の概要（英文）：I examined competency required for the teachers who instruct the project-based-learning in the elementary and junior high school in an international field of vision and performed a basic study to develop the upbringing model. I developed a training model of the teacher training through the practice of the curriculum development workshop in Japan for a hint by PBL type practice in Denmark. In addition, I developed an international comparison Web questionnaire program to make the international common standard of the competency of the teacher who instructed the project-based-learning.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	0	1,400,000
2010年度	1,200,000	0	1,200,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	150,000	3,250,000

研究分野： 教育方法学

科研費の分科・細目： 教育学，教科教育学

キーワード： 総合的な学習，教師のコンピテンシー育成，ワークショップ型研修

## 1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領では、日本の子どもたちに知識を活用する学習機会を増やし、探究的な学びを保障することが今まで以上に強く求められることになったが、現行の学習指導要領に「総合的な学習の時間」が導入され、自ら課題を見つけ、自ら考え、問題解決を図る学習が小学校3年生以上高校生まで必

修とされたにもかかわらず、様々な事情から期待された実践が普及したとは言えないまま今日に至っている。こうした実態と教員の意識に関しては、既に筆者が平成18年度科学研究費補助金基盤研究(C)：総合的な学習の実施状況と教師の実践意識に関する全国調査（課題番号：18633011，研究代表者：伏木久始）において課題を実証的に明

らかにしているが、教師たちの声として、教員養成や教師教育において学際的な教材研究の機会やそれを体験的・探究的に学ぶ機会を十分に保障することの重要性が確認されている。

また、平成17年度～19年度科学研究費補助金・基盤研究(B)：総合的な学習のカリキュラム開発・実践に関する国際比較研究(課題番号：17402045, 研究代表者：伏木久始)において、諸外国の総合学習の実践を取材し、日本の総合学習の実践づくりにより有益な実践映像を紹介しつつ学校現場の総合学習をサポートする取り組みを続けてきた。その海外調査の過程で、北欧諸国の教員養成において展開されているグループワークの手法がヒントとなり、総合的な学習を指導する教員に求められるコンピテンシーは、協同で具体的なカリキュラム開発に挑むワークショップ・モデルを導入することが有効だと考え、本研究プロジェクトが始まった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、小・中学校における総合的な学習を指導する教師に求められるコンピテンシーを国際的な視野で検討し、その育成モデルをワークショップ研修のスタイルで構想することである。

「総合的な学習の時間」が学校の教育課程に位置づけられてから10年が経過した現在でも、多くの現場では学習指導要領に掲げられた目標にかなう実践を展開できていない実態にある。その原因は様々に指摘できるが、指導者となる教師の意識変革によって実践状況が改善される面も無視できない。そこで、総合的な学習を指導する教師に求められるコンピテンシー(ここでは「卓越した実践的指導力を峻別する行動レベルの指標」という意味で用いる)を整理した上で、校内研修や教育委員会等が主催する研修講座において、指導者のコンピテンシーを高めるための実践的・具体的な研修モデルを開発することを目指して着手した研究である。

なお、本研究は諸外国の総合的な学習の実践状況や各国の指導者に求められるコンピテンシーを相互比較して、国際的な視野で新時代の総合的な学習プログラムを構想していく研究プロジェクトを起ち上げるための準備段階に位置づく基礎的研究である。

## 3. 研究の方法

### (1) 先行研究の整理

総合的な学習の実施状況と教師の実践意識に関する先行研究や、教師のコンピテンシーに関する文献調査、さらに国内での教師へのインタビュー調査などをふまえて、総合的な学習を指導する教師に必要な力量等を整理する。

### (2) 諸外国の総合的な学習に類する授業の指導者育成方法の現地取材

教師養成段階でPBL(Project-Based-Learnig)をカリキュラムに取り入れているデンマークの教師養成校の取り組みを継続取材するとともに、オランダの教師養成機関(PABO)への取材をもとに、指導者を養成するための教育方法の情報を収集する。

### (3) 総合的な学習の指導者養成のためのワークショップの試行実践

小中学校の教師対象の研修講座または教職志望の学生向けの授業において総合的な学習のカリキュラム開発をターゲットにしたワークショップ型研修を実践しつつ、その演習方法の改良を重ねながらワークショップの内容・方法を磨き上げる。

### (4) 国際比較調査のためのデジタル版(Webでの質問シート)質問紙の作成

「総合的な学習」を指導する教師の実践意識や指導者に求められる力量に関する国際比較研究を可能にするWebアンケートを作成するため、既に2006年度に実施済みのアンケート調査シートの内容を見直し、質問項目を厳選した上でデジタル処理可能な質問紙に改良する。日本語を数カ国語に翻訳し、それぞれ現地の教師による内容チェックを経てWebサーバーで管理できるアンケートシステムを試験的に開発する。

## 4. 研究成果

### (1) 主な成果

#### ①「総合的な学習の時間」に対する指導者の意識格差の実態の解明

先行研究のレビューや教師たちとの対談により、総合的な学習を指導する教師の意識には、学校種により大きく差がみられることが再確認された。小学校の教師は総合的な学習を学級経営の一環として位置づけることで主体的に取り組む姿勢がみられるものの、中学校や高等学校の教師にとっては、総合的な学習に関する指導は、自分が担当する授業科目とは別のオプションとして位置づける傾向が強く、学級単位

よりも学年単位で取り組み，テーマを固定化してマニュアル化した指導を繰り返す傾向が顕著に表れた。なかには「総合的な学習の時間」を受験対策の講座や単なる行事の準備等に充てるなど，学習指導要領の主旨に整合しない実態も散見された。

また，児童・生徒と未知なることを探究する活動に意欲的に取り組む教員が存在する一方で，同僚が作成したプログラムに依存し，主体的に取り組むことが少ない教員，もしくは総合的な学習への理解が不足している教員が少なくない実態が明らかになった。

これらの問題点の多くは，教員自身が総合的な学習のユニークな実践イメージが乏しいこと，指導以前に地域の素材や学習対象を研究する時間的猶予が存在しないこと，探究活動等に必要となる時間的・経済的措置が教育現場に十分に施されていないことが大きな要因になっているとの声が聴かれた。

#### ②教師のコンピテンシーという概念の整理

教師の資質・能力という言葉を使わず，「卓越した実践的指導力を峻別する行動レベルの指標」という意味で「コンピテンシー」という概念を持ち込み，企業での人材開発や専門職の職能発達にかかわる先行研究をふまえながら，今後の教師に求められる力量等について整理し，その成果を日本カリキュラム学会等で発表した。

#### ③海外の総合的な学習に関わる指導者養成プログラムの有効性の確認

デンマークの専門職養成ネットワーク(UCC)での異業種合同のプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を複数年継続して取材したなかで，特にコペンハーゲン郊外のBlaagaard校で実践している「職業を越えて(TV-Proff)」というPBL型演習がまさに総合的な学習を指導する教師の力量形成に位置づけられるユニークなプロジェクトであることを見出し，その具体的な授業運営方式や教育成果等をまとめ，信州大学教育学部研究論集等に掲載した。

#### ④教員養成段階のカリキュラム開発の演習モデルの開発

教職課程の学生を対象とした演習において，総合的な学習のテーマ設定からカリキュラムづくりの実践的なワークショップ型グループ演習の指導モデルを開発した。テーマ設定の手法から始まり，ウェビングやKJ法による学

習項目の構造化を図り，時系列に整理したり，具体的な活動を位置づけたりする演習を通して，グループワークを基調としたカリキュラム開発プロセスを経験するワークショップをデザインした。そのモデルを専門科目である「教育方法学・総合学習概論」のシラバスに導入し，その有効性を授業を通して検証した。

#### ⑤現職教師対象のワークショップ型研修モデルの開発

現職教員の研修講座の指導者を依頼されるごとに，本研究でデザインしたカリキュラム開発モデルを実践し，参加者の教師たちからの授業評価をふまえつつ，部分修正を繰り返しながら，ワークショップ型の研修モデルを開発した。総合的な学習のカリキュラム開発等は，それぞれの地域や学校の諸事情，子どもの学習活動の履歴や興味・関心の実態等により様々なアイデアが要求されるが，カリキュラム開発の方法論をワークショップ形式のモデルに具体化することはある程度可能である。本研究により，ワークショップそのものは実践を通してスタイルを変えながらも，教師の研修機会として共通に強調されるべきことと個別具体的な状況に応じて臨機応変に対処すべきことを区別しながら研修モデルを開発することができた。

#### ⑥総合的な学習の実践に関する国際比較調査のデジタルシート作成

諸外国の総合的な学習に関するインタビュー調査を通して，総合的な学習の実践に関するデジタル調査シートを準備することができた。既に日本国内の教員向けに2006年度に実施済みだったアンケート調査シートの内容を見直し，質問項目を厳選した上でデジタル処理可能な質問紙に改良作成した。

外国語版は英語，中国語，フィンランド語，デンマーク語，オランダ語の5つの外国語版とし，各国の研究者や教師たちとのディスカッションを通して，各国の学校教育における総合的な学習の文脈の特徴や教師の役割の違いを相互理解しながら，質問内容や言語表現上の調整を行い，それぞれの国の事情を考慮した国際比較調査が実現できるようなWeb質問シートを開発した。

参考資料として，以下に国際比較アンケートのトップ画面(図1)とフィンランド語語版のデジタル質問シート(図2)のイメージを添付する。



における教職実践演習の位置づけ-信州大学教育学部のコンセプト-, SYNAPSE, 査読なし, 創刊号, 2010, 26-31

⑨松本隆, 伏木久始, 和太鼓を材とした総合的な学習における生徒の探究のプロセス, 教育実践研究, 査読なし, 第11号, 2010, 49-58

⑩阿部純・伏木久始, 子どもが主体的に追究していくための教師の環境づくり-教師の日常に目を向けて-, 信州大学教育学部/学部・附属共同研究報告書, 査読なし, 2010, 60-68

⑪伏木久始, 地域の学校での職場体験と大学での演習を連携させる授業の教育効果, 日本教師教育学会年報, 査読あり, 第18集, 2009, 108-117

[学会発表] (計9件)

①中田正弘・坂田哲人・伏木久始・鞍馬裕美, PROFESSIONAL GROWTH OF STUDENT TEACHER THROUGH LESSON STUDY AND REFLECTION, 40th Annual Congress of the Nordic Educational Research, 2012.3.8, DPU, Copenhagen

②伏木久始, 大学生がプロデュースする「総合演習」の実践-総合的な学習を指導する教員に求められる探究活動の経験-, 日本生活科・総合的学習教育学会, 2011.6.18, 岐阜聖徳大学

③坂田哲人, 中田正弘, 伏木久始, Teacher Quality Assurance on Pre-Service Teacher Education, 39th Annual Congress of the Nordic Educational Research, 2011.3.10, Jyväskylä University, Finland

④伏木久始, 教職の専門性を追求する教員養成カリキュラムのデザイン, 日本カリキュラム学会第21回大会, 2010.7.4, 佐賀大学

⑤伏木久始, 大学生版「総合的な学習」の教育効果-学生提案型「総合演習」の3年間の実績評価から-, 日本生活科・総合的学習教育学会, 第19回大会, 2010.6.26, (京都)立命館小学校

⑥伏木久始他7名, 教職実践演習のカリキュラム開発プロセスと教職科目の単位の実質化, 日本教育大学協会研究集会, 2009.10.17, 北野ホテルプラザ「六甲荘」(神戸)

⑦伏木久始・武田信子・坂田哲人, 教職の専門性における教員のコンピテンシーを考える, 日本教育方法学会第45回大会ラウンドテーブル, 2009.9.27, 香川大学

⑧伏木久始, デンマークの教員養成におけるPBL型グループワークの試み, 日本教育方法学会第45回大会, 2009.9.26, 香川大学

⑨伏木久始・島田希, 人材育成におけるコンピテンシー研究をふまえた「教職実践演習」のカリキュラム開発プロセス, 日本カリキュラム学会第20回大会, 2009.7.11, 神田外語大学(千葉)

[図書] (計1件)

①伏木久始(編著), 信州教育出版社, 信州発・大学版「総合学習」の展開, 2012.3, pp.1-28/pp.175-177

[その他]

ホームページアドレス

<http://soar-rd.shinshu-u.ac.jp/profile/ja.jhLeWhLe.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

伏木 久始 (FUSEGI HISASHI)  
信州大学・教育学部・教授  
研究者番号: 00362088

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: